



# 県病医療ニュース

〒870-8511 大分市豊饒二丁目8番1号 TEL097-546-7111(代表) 内線7712:県病ニュース係



※当ニュースへのご意見・ご感想は県病ウェブサイトをご利用ください。

大分県立病院ウェブサイトはこちら

## 脳神経外科 コロナ禍に増えた?慢性硬膜下血腫

脳は硬膜という膜に覆われており、なんらかの理由で脳と硬膜の間(硬膜下腔)に慢性的に血液が溜まり、脳を圧排(出血やその他による圧迫などが原因となり、正常部を押し出すこと)して症状を呈する慢性硬膜下血腫という病気があります。

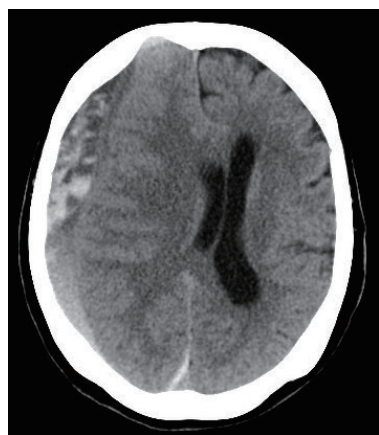
主に高齢者になりやすい病気の原因としては外傷を契機に生じますが、血液をサラサラにする抗血小板剤や抗凝固剤を内服している方、肝臓や腎臓、血液の基礎疾患をお持ちの方、飲酒量が多い方など、外傷以外の原因でも生じます。症状は頭痛や麻痺などに加え、言葉が出にくくなる、意欲が低下する、逆に怒りっぽくなるなど多彩で、普段できていたことが出来なくなる、物忘れがひどくなるといった認知症に似た症状を呈することもあります。

治療は、溜まっている血腫が少量であれば内服治療でよくなることがありますが、血腫が多いと手術が必要になります。手術を行えば、大抵の方は速やかに症状が改善する病気です。

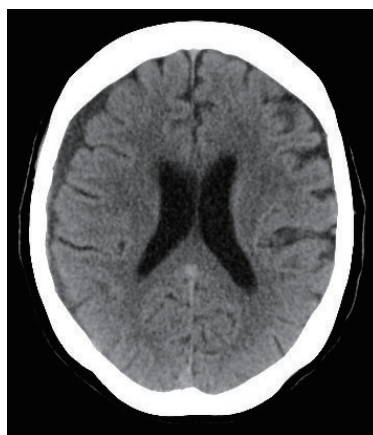
コロナ感染症の拡大を機に今までの日常生活が様変わりして、人と人との付き合い方も変わりました。特に高齢者は活動範囲が狭くなり、それに伴い筋力が低下し、日常生活の中でちょっとした外傷を起こすことが多くなったと予想されます。また、他人と接触する機会が減ったことにより、本人の症状を早めに察知することができにくくなっているとも考えられます。

これからもコロナ感染症に伴う活動制限は完全に無くならないと思います。

高齢者の方は、普段からできる範囲の運動を心がけていただくことと、ご家族にはまめに様子を見て連絡をとってもらうことが大切です。

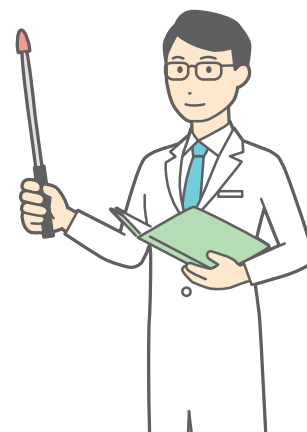


術前



術後

(脳神経外科 副部長 下高一徳)



(裏面をご覧ください)

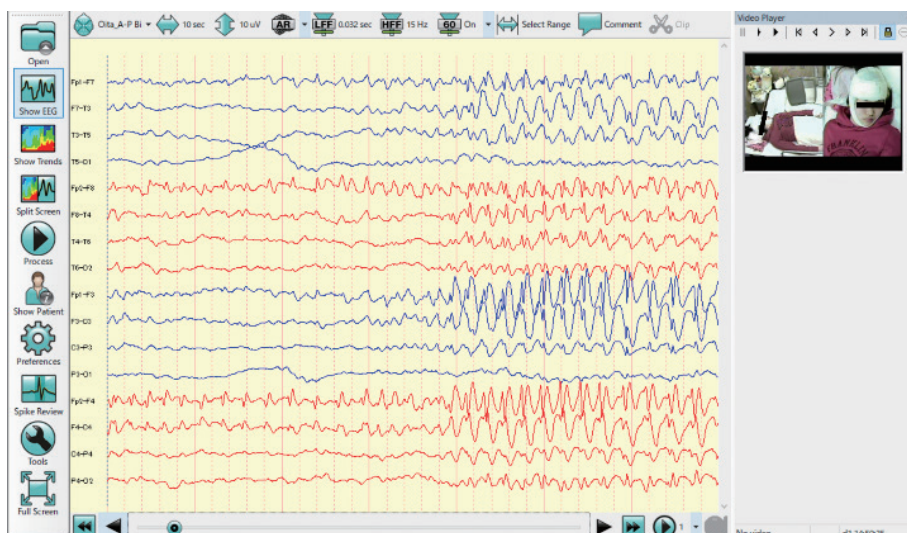
※掲載内容の詳細は各科外来・各病棟でお尋ねください。

小児科

# 長時間ビデオ 脳波モニタリングのすすめ

2022年 11月 第172号

脳波検査は脳の電気活動を調べる検査です。頭皮に直径10mmの電極を複数装着し安静臥床して行う、痛みを伴わない検査です。てんかんを正しく診断することを目的に行うことが多いですが、年齢相応の脳活動が行われているかどうか、睡眠の質はどうかなど正常な脳機能を評価する検査でもあります。



通常の脳波検査は外来で1時間程度ですが、いつ起きるかわからないてんかん発作を狙う場合は、入院の上病棟で長時間ビデオ脳波モニタリングを行います。長時間ビデオ脳波モニタリングは、電極を装着した状態で半日～最大5日間くらい脳波をずっと取り続ける検査です。外来で行う脳波検査では捉えられない稀な異常波やてんかん発作を記録する(図)ことが目的です。動画と脳波を同時記録することで、発作がてんかん発作かどうか、てんかん発作ならばどんな発作か、正確な診断をすることで、適正な薬物療法、手術療法の選択につながります。正常なこどもの動きでも、てんかん発作と紛らわしいことがあるので、長時間ビデオ脳波モニタリングの結果は正常な動きの診断にも重宝します。

お子さんの動きが気になるときは、気軽にご相談ください。

(小児科 副部長 岡成 和夫)



看護師ほか医療スタッフの  
臨時職員を募集しています。  
詳しくはこちら

※掲載内容の詳細は各科外来・各病棟でお尋ねください。

(裏面をご覧ください)